

令和4年度 事業報告

社会福祉法人 恵徳会

令和 4 年度の主な事業報告

社会福祉法人恵徳会

社会福祉事業

【社会福祉法人 恵徳会】

令和4年度、社会福祉法人恵徳会は前年度同様、『経営の充実と安定した運営を取り組む』を事業目標として、1. 利用率の向上、2. 高品質なサービスの提供、3. 働きやすい職場づくり・人材育成、4. 地域貢献、以上4点を具体的計画に掲げ取り組みを行った。

上記を踏まえ、具体的計画に基づく令和4年度の事業について、次のとおり報告する。

1. 利用率の向上

・令和4年度は、各種会議内で法人の経営状況を説明し、各事業所で定めた稼働率の改善や経営参画の意識づけを行った。

・コロナ禍により営業活動も著しく制限されたが、PR紙を回覧板へ添付するほか、完全状況を見ながら医療機関や居宅介護事業所へ訪問した。

・補正予算を4回実施し、収支状況の変化に対応した。

・措置入所者の現状に伴い、養護老人ホームの定員変更を実施。また、夜勤業務の効率化を図るため、介護度の高い利用者を法人内外の施設等へ転院を行った。福岡県との土地無償貸与期間が令和5年3月末満了となるため、期間の更新並びに今後の事業運営の健全化のため、新たな事業への参画について福岡県と協議を行った。

・各事業所で新型コロナウイルスクラスターが発生し、利用者の受け入れ中止、一時的な事業中止を余儀なくされ、経営的にも職員の業務にも影響や負担が大きかった。

2. 高品質なサービスの提供

・老朽化による施設設備の修理が多発。若杉の里・双葉はエアコンの大規模入替を実施した。

・法人内ネットワーク環境を見直し、セキュリティ対策並びに、介護・会計ソフトの入れ替えによる業務効率化を図った。

・毎月各事業所のキャッシュフローを確認し、年度末及び翌期以降を想定しつつ資金移動を実施した。

・福祉医療事業団からの新型コロナ発生における借入、及び行政からの助成金を受けながら感染対策を行った。

・家族面会は、感染対策実施の上可能な限り対面方式での面会を行い、利用者の精神的な不安解消を図った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

・職員補充が間に合っておらず各事業所時間外勤務が増えている。業務内容の見直しを行っているが、労働環境の改善は図れなかった。

・法人職員4名がなごの国ケアスクール実務者研修を受講したため、受講料の助成を行った。

・ホームページやインターネットの求人広告を拡張し、若干名の雇用に繋がった。

・ミャンマーからの技能実習生を雇用し、令和5年度もEPA介護福祉士候補生の雇用を予定しており、法人内での外国人労働者の雇用人数は増えてきている。

・ハラスメント窓口を設けているが、職員研修は未実施。

・IT、ICT補助金を活用し、会計ソフト並びに介護ソフトの整備を実施。ただし、導入時期が令和5年度にずれ込んだため、本格運用は令和5年度を予定している。

4. 地域貢献

- ・新型コロナウイルス感染対策により実施出来ていなかった地域行事等も緩和されつつあり、ミニデイ(須恵町)、あいさつ通り清掃(太宰府)、子ども食堂への食材配達(西区)等を行った。
- ・ライフレスキュー事業では、支援者への援助として家電製品の搬入や、他事業所間の情報共有、資料作成を実施。職員等から譲り受けた家具や家電を施設内で保管している。
- ・地域と連携した防災訓練は感染対策から通報訓練のみに参加した。

[諸会議]

(1) 理事会

第1回 令和4年 4月6日 Web会議	第1号議案	独立行政法人福祉医療機構からの借入について
第2回 令和4年 4月27日 Web会議	第2号議案	令和4年度第1回第1号議案「独立行政法人福祉医療機構の借入について」の借入申込条件の変更について
第3回 令和4年 6月9日 Web会議	第3号議案	令和3年度事業報告について
	第4号議案	・令和3年度決算について ・令和3年度社会福祉充実額の算定結果について
	監事監査報告	監査報告について
	第5号議案	令和4年度第1次補正予算(案)について
	第6号議案	職員の特種業務に関する規定(内規)の制定
	第7号議案	「ケアプランセンターふたば」の運営規定一部改正について
	第8号議案	令和4年度第1回定時評議員会開催日時、提案議案について
	報告事項	・令和3年度第4四半期報告 ・「独立行政法人福祉医療機構からの借入について」の借入条件の変更について ・介護老人保健施設若杉の里新型コロナ発症状況報告
第4回 令和4年 9月29日 Web会議	第9号議案	令和4年度第2次補正予算(案)について
	第10号議案	「デイサービスセンターなのくに」及び「ヘルパーステーションなのくに」管理者変更について
	第11号議案	諸規定の一部改正について ①給与規定 ②嘱託職員・パートタイム職員就業規則 ③育児休業及び育児短時間勤務に関する規定 ④介護休業及び介護短時間勤務に関する規定
	報告事項	・令和4年度第1四半期報告 ・IT補助金申請(新会計ソフト導入)、ICT補助金申請(新介護ソフト導入)について ・「養護老人ホーム双葉」、「特別養護老人ホームなの国」新型コロナ発生状況について

第 5 回 令和 4 年 12 月 15 日 Web 会議	第 12 号議案	令和 4 年度第 3 次補正予算(案)について
	報告事項	・令和 4 年度第 2 四半期報告 ・特別養護老人ホームなの国指導監査報告 ・養護老人ホーム双葉方向性について
第 6 回 令和 5 年 3 月 28 日 Web 会議	第 13 号議案	令和 4 年度第 4 次補正予算(案)について
	第 14 号議案	令和 5 年度事業計画(案)について
	第 15 号議案	令和 5 年度予算(案)について
	第 16 号議案	施設長選任について
	第 17 号議案	養護老人ホーム双葉 苦情解決第三者委員選任について
	第 18 号議案	特別養護老人ホームなの国運営規定の一部改正について
	報告事項	・令和 4 年度第 3 四半期報告 ・「双葉敷地の使用貸借契約満了」に伴う協議について ・特別養護老人ホームなの国指導監査報告 ・特別養護老人ホーム恵昭園新型コロナ発症状況報告 ・令和 5 年度特別養護老人ホーム恵昭園、介護老人保健施設若杉の里並びに特別養護老人ホームなの国の給食委託業者選定について

(2) 評議員会

第 1 回 定時 令和 4 年 6 月 28 日 Web 会議	第 1 号議案	令和 3 年度決算について
	第 2 号議案	令和 3 年度社会福祉充実額の算定について
	監事監査報告	監査報告について
	報告事項	・令和 3 年度第 4 四半期報告 ・独立行政法人福祉医療機構借入金変更について ・介護老人保健施設若杉の里新型コロナ発症について

(3) 監事監査 令和 4 年 6 月 6 日

(4) 会計士監査 令和 4 年 5 月 30 日、令和 4 年 6 月 1 日～2 日(計 3 日間)
令和 4 年 11 月 25 日

(5) 運営会議 3 回

(6) 施設長会 12 回(毎月)

(7) 幹部職員会議 12 回(毎月)

(8) 各種委員会 適時開催

【特別養護老人ホーム恵昭園】

1. 利用率の向上

- ・毎月 1 名以上の新入所を念頭に年間 10 名の受入れを実施。しかし、退所者が 12 名(特に 2 月のクラスター発生時は 1 か月に 3 名)であった事、長期療養者が多かった事で実績に影響し、予算人数である平均 44.8 名は達成したものの、年間平均利用 46 名は達成できなかった。
- ・営業活動により新規申し込みは増えたものの、稼働率には直結しなかった。

- ・稼働率の見直しや各補助金等の状況により随時補正を行ってきたが、クラスター対策に伴う感染対策物品(消耗品等)の購入により予算超過が見られた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・排泄用品のメーカー変更を行ったが、個々の利用者に応じてパット等を使い分け、交換頻度を増やす等の対応を実施した。

- ・衣類管理に関して、洗濯物がタンスの上に置かれたままになっており習慣化できていなかった。

- ・新型コロナの影響で外出行事は1回のみ実施。年間行事については開催方法を工夫することで定期的に実施することができた。

- ・定期的な健康診断の結果委報告は、面会制限等もあり、大きく変化があった方だけの電話での報告が主となった。

- ・体調急変時に全ての職員が速やかな対応が出来るよう、記録整理の重要性を感じた。

- ・終末期、医師や看護師からの説明に際し、ご家族の納得が得られるまで繰り返し状態説明を行った。

- ・事故やヒヤリハット事例が発生した後の申し送りは継続したが、職員のミスにより本来であれば防げた事故も多くあった。

- ・褥瘡予防アセスメントを年に2回実施し皮膚状態の変化に早期に対応できたことで、褥瘡ゼロを継続することができた。

- ・センサー機器の使用は、利用者の状態変化等必要に応じて設置や解除するよう努めた。

- ・クラスター発生時、介護職員の欠員により利用者のケアを優先した結果、初動対応の遅さや拠点内の連携不足が浮き彫りとなったほか、感染対策委員会の機能不全が明らかとなった。

- ・県内の感染状況により、家族面会の一部緩和や制限を繰り返すこととなった。面会制限中はご家族へ近況報告等を実施した。また、面会可能な時期にはご家族へ意向や要望の聞き取りを行った。

- ・提供する食事については、定期的に情報共有を行い、適正な食事内容や食事形態、代替食品や補助食品を検討、提供を行うことができた。

- ・感染対策時は、フロア間の行き来が制限された事もあり、機能低下が予測される利用者への集中観察や生活支援が十分に出来なかったが、職員へ伝達を行った。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染対策により、職員が集まった研修はほとんど開催出来ず、研修が実施出来た際もほとんどの職員が参加出来なかった(感染対策)。代替として、オンラインや研修資料の配布により、知識の習得に繋げた。

- ・中堅職員だけでなく、職員全体の介護技術の底上げが今後の課題と考えるが、会部研修は感染対策のためほとんど参加出来なかった。

- ・勤務体制の見直しや工夫を行った事で、計画的に有給消化が出来た月もあった。

- ・インフルエンザ予防接種への補助や新型コロナワクチンの職場内接種により、職員の罹患並びに重症化予防を図った。

4. 地域貢献

- ・地域の避難所として行政を通じて近隣へ連絡していたが、実際の避難はなかった。

【恵昭園短期入所生活介護】

1. 利用率の向上

- ・年間平均 7.6 名。最も利用率が良かったのは 10 月で 8.71 名。
- ・担当者会議への参加を通して、ケアマネジャーとの連携を深め、ショート利用に繋がるようアプローチした。
- ・夜勤者の有無により追加利用や新規の受入れが難しいケースが散見されている。
- ・胃ろう、導尿、インスリン注射等の方は日中のみ対応可、看護師不在でも問題ない方の受入れはしっかり行えている。
- ・褥瘡処置に関して、患部の状態によってはご家族へ受診の提案を行った。

2. 高品質なサービスの提供

- ・送迎時ご家族と情報共有を行い、意向確認や情報収集、提案やアドバイスを実施している。
- ・正確なフェイスシート作成を心掛け、初回時等整合性を確認している。
- ・季節に応じて壁紙の貼り替えや飾りつけを実施し雰囲気作りを行った。
- ・利用者の身体状態に合わせて居室割を実施。清掃は気付いた時に後回しにせず実施することで、環境整備に努めた。
- ・夜勤者不在の際は、特養夜勤者の負担が増大した。夜勤者不在の際の対応を一覧表にし、情報提供や共有を行った。
- ・リハビリ希望の方には、希望されるリハ内容を提供した。
- ・クラスター発生時、事業所を一時閉鎖したため、利用者やご家族へ迷惑をかけてしまった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・業務中情報交換やコミュニケーションを図り、チーム力を意識し、意思統一に努めた。

4. 地域貢献

- ・ライフレスキュー連絡会の参加を通して地域の課題把握に努めた。

【アネックス恵昭園】

1. 利用率の向上

- ・年度開始時、平均 15 名でスタートし、平均 18 名まで稼働率は伸びたが、クラスター発生により長期入院者が出たことで稼働率に影響を与え、最終的に年間平均 16.9 名となった。
- ・随時、待機者へ声掛けを行うも、入居希望がなく、新規申込者を積極的に受け入れた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・入居者の状態変化に合わせてリフト浴から特浴へ変更を行った。介護職員のみでの対応は困難な際は、多職種と連携し安全にリラックスできる入浴ケアを提供することが出来た。
- ・整容や身だしなみケアは担当職員間で意識の差があり、特に衣類に関しては職員によって差が見られた。
- ・感染対策で、外出行事は 2 回のみ実施。
- ・終末期には、医師や看護師よりご家族へ説明を行い、気持ちが揺れるご家族には繰り返し意向確認を行った。また、ご家族と関わる時間を多く持つよう心掛け、多職種とも情報共有を図った。付き添いや面会が難しいご家族へは、日々の状態を電話で伝えるよう努めた。
- ・通常と異なる状態や行動の入居者の情報を職員間で共有、伝達することが出来た。

- ・各職種集合してのカンファレンスが難しかったため、モニタリングや意見聴取に努めた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・タブレットを使用した記録システムは、職員一人ひとりが積極的に情報発信を行い、活用することが出来たが、個々の介護観の相違から、偏った内容となっていた事もあり、チームワークに支障を来すケースがあった。

4. 地域貢献

- ・新型コロナウイルス流行のため、地域の行事が中止となり参加出来なかった。

[実績]

① 入・退所（恵昭園）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	1	1	0	2	1	1	1	0	1	0	1	10
退所者数	0	0	1	1	0	2	2	1	0	1	3	1	12
月末在所数	45	45	45	45	44	45	45	46	44	44	41	43	
稼働率(%)	88	90	90	90	91	91	91	93	91	89	87	87	90.00

②短期入所

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者(延)	244	251	244	250	225	253	270	230	254	263	82	217	2,783
平均数	8.1	8.1	8.1	8.1	7.2	8.4	8.7	7.7	8.2	8.5	2.9	7.0	7.9
稼働率(%)	51	51	51	50	45	53	54	48	51	53	18	44	47.40

③入・退所（アネックス）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6
退所者数	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
月末在所数	15	17	17	17	17	17	18	18	8	17	15	15	16.75
稼働率(%)	74.5	66.5	66	68.2	72.4	72.7	73.5	83	85	80.2	76.1	73.2	74.28

【養護老人ホーム双葉】

1. 利用率の向上

- ・各職種へ積極的に業務協力を依頼し、施設運営の効率を図った。
- ・感染対策や人員不足等によるフォローのため、関係各所への挨拶周りは1度きりとなったが、各種機関と連絡を取る機会を利用し、電話でアプローチを実施した。
- ・入所件数は少ないものの、他施設閉鎖に伴う受入れ等について、面接を入所当日に行う等、迅速に対応した。
- ・利用者入院時、面会は出来ず入院先の病院からの情報収集のみとなったが、退院前の情報共有を密に実施した。入院先の病院や双葉施設内でのクラスター発生時は入院期間延長を依頼した。

2. 高品質なサービスの提供

- ・リスク管理委員会で、感染症やインフルエンザ、ノロウイルス、疥癬、夜間緊急時対応についてマニュアル更新を行った。
- ・利用者から職員に対する暴力行為に対して、職員全員から意見を聞いたうえで、措置権者も含めて話し合いの場を設けた。
- ・退院前の栄養指導時は、看護師と利用者本人が同席して指導を受けた。
- ・デイサービスを利用していた利用者からの新型コロナウイルス感染者数は、利用者 46 名、職員 11 名となった。職員不足に伴い、法人内の他施設より応援職員を依頼。嘱託医の協力も得ながら、PCR検査や抗原検査を実施し、終息に向けて職員一丸となり感染対策を行った。それ以後の感染者は出ておらず、職員は週 2 回の抗原検査を継続実施した。
- ・感染対策のため、病院受診を代理で行ったり、定期的な受診は可能な限り一度で済むよう複数人一緒に受診する等調整を行った。
- ・利用者の身体状況等に応じて居室の移床を実施した。
- ・業務改善を頻回に行った事で、職員間の周知が徹底できなかった部分があった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・安全に業務が出来るよう、PCR検査や抗原検査を活用し、感染判明後も速やかに療養できる体制を整えた。
- ・法人合同研修は、Web 開催が主となったが、当初はネットワーク環境が確立できておらず、参加が出来なかった。
- ・クラスター発生時、職種間で協力し合うことが出来たことで、連携の大切さを身をもって感じる事が出来た。

4. 地域貢献

- ・新型コロナウイルス感染症により、クリーンデイへの参加や地域との交流は出来なかったが、実習生と共同で作成した壁面をプレゼントすることで他施設との交流を図った。
- ・緊急保護入所を 2 名受入れ、その内の 1 名は措置入所へ繋がった。

【訪問介護事業所 ホームヘルパーステーション ふたば】

1. 利用率の向上

- ・年間平均利用者数は、職員の休職や退職に伴い利用者数を縮小したため、下半期は目標達成出来なかった。
- ・随時空き状況を報告したが、限られた曜日や時間であったため、利用に繋がらなかった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・サービス内容が変更となった際の「訪問介護サービスに係る業務手順書」の見直しが速やかに出来なかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・感染状況を踏まえ、研修が中止となった場合は資料配布を行った。
- ・訪問介護会議内での意見交換や、サービス提供時の不安または疑問の解消に努めた。

4. 地域貢献

- ・利用者本意に沿ったサービス提供を実施した。

[実績]

①入・退所（双葉）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入所者数	1	0	3	1	0	1	0	1	1	1	1	0	10
退所者数	0	0	1	1	1	2	2	1	2	0	1	3	14
月初在所者数	73	74	74	76	76	75	74	72	73	72	72	72	883
稼働率(%)	93.6	94.9	94.9	97.4	97.4	96.2	94.9	92.3	93.6	92.3	92.3	92.3	94.3

②ヘルパーステーション

登録者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合事業	47	51	51	48	46	47	46	47	43	42	37	38	543
要介護者	51	48	47	51	46	47	49	43	42	38	39	31	532
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	98	99	98	99	92	94	95	90	85	80	76	69	1,075

サービス提供延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防(総合)	228	232	240	232	224	247	234	224	186	186	170	204
生活	149	160	146	151	84	135	154	177	151	94	112	94
身体	127	118	116	108	66	106	167	162	75	66	71	72
身体+生活	114	114	112	111	58	119	133	110	57	54	66	65
合計	618	624	614	602	432	607	688	673	469	400	419	435

【特別養護老人ホームなの国】

1. 利用率の向上

- ・年間稼働率は平均 75.4 名と目標人数を大きく下回った。
- ・嘱託医院に限らず、医療機関等からの入居依頼があった際は柔軟に対応し、年間で 2 名の入居に至った。
- ・各委員会や職員間の話し合いで効果測定を実施するも、類似事故や時間が経った後に事故が発生する等あり、介護事故に対するアプローチが不十分だった。
- ・施設内のサークル活動の様子をInstagramに投稿、情報発信に努めた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・新型コロナウイルス等感染症対応に関してマニュアルを作成、感染症発生時は該当ユニットスタッフのみならず、多職種とスムーズに連携を図ることが出来た。
- ・苦情受付体制での苦情件数は 0 件であったが、施設に対する要望は 6 件あった。
- ・ケアプラン更新時、ご家族へ連絡を取り様子を伝える他、要望等の聞き取りを行った。
- ・感染対策として、1日1フロアに限定して機能訓練を実施。1か月ごとにスケジュール管理を行い、予定表を各フロアに配布や掲示を行った。
- ・季節の食材提供と合わせてお品書きや料理説明書についても季節を感じられるようなイラストや説明を添えて配布した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・役割分担を明確にしたことで、残業時間の短縮に繋がった。
- ・有給管理台帳を基に、各職員の残数や年間取得日数について説明を行い、定期的な有給休暇を組み込んだ。
- ・ノーリフティングケアを取り入れている。
- ・救命救急研修や介護技術、ユニットケア等の研修を随時実施した。

4. 地域貢献

- ・公園清掃や花壇管理を通じ、入居者が地域と繋がるきっかけづくりを行った。
- ・ライフレスキュー事業については、直接的な活動へ繋がる案件は発生せず。

【ショートステイなの国】

1. 利用率の向上

- ・目標稼働率、月平均 17 人に対し実績は月平均 16.1 名。目標値に対して 80.3%の稼働率で推移した。稼働停止日数の増加や利用控え、罹患後の体調不良等で既存の利用者は大きく影響を受けた一方、新規の利用者の獲得も出来た。
- ・緊急の受入れは、感染症対策から断らざるを得ないケースもあったが、一方で虐待疑いのケースについては緊急受入れを実施した。
- ・新型コロナによるサービスの一時中断時は、利用者本人と関わりのある他事業所とも連携しながら経過報告等を実施した。
- ・ショートステイ利用から特養入居の申し込みを行い、入居待機で長期利用された方が 10 名。在宅生活支援のため、併設のデイサービスやヘルパーサ高住への紹介を行い、在宅生活が続出来たケースもあった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・年度中 6 名の利用者が利用中に新型コロナに罹患され、内 2 名が収束までのケアを実施した。
- ・生活リハビリ等個別対応のニーズが増えおり、都度協議の上可能な限り取り組みを行った。
- ・感染対策での利用中止時に 2 件の苦情要望に対応。以後、同様の要望は発生していない。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・オンライン研修が主となったが、介護報酬改定を見据えて BCP 研修等可能な限り参加した。

4. 地域貢献

- ・新型コロナウイルスの影響もあり、地域ケアを考える会の活動は未実施。

【デイサービスセンターなのくに】

1. 利用率の向上

- ・感染対策を徹底し、見学や体験利用を積極的に受け入れた結果、事業所の意向が伝わり新規相談件数増に繋がった。
- ・ご家族との会話の中で介護負担を感じた際は、担当ケアマネへ連絡し利用時間や回数等サービス見直しの提案を行った。
- ・個別機能訓練に力を入れ、残存機能の維持向上に努めた。創作活動では、利用者の意見を反映し、少し手の込んだ作品作りを実施。手先を使うことで集中して取り組まれた。
- ・希望に沿って短時間利用や、行事への参加、病院受診に伴う振替利用、ご家族の負担を考慮しての追加利用等柔軟に実施した。
- ・家具の配置変更により、在庫の把握が容易となり、業務に支障を来さないようになった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・申し送り回数を朝だけでなく夕にも増やしたことで、目標の浸透を図った。

- ・月1回以上の会議と随時個別カンファレンスを行うことで、サービスの振り返りと改善点、業務の見直しを行った。
 - ・各職種からの意見を機能訓練指導員が集約し、「自宅での暮らし」をイメージした運動プログラムを提供した。そのプログラム構築が事業所の売りとなり新たな利用者獲得に繋がった。
 - ・定期的な抗原検査や昼休み後の検温を徹底し、職員が感染源とならないよう配慮した他、新型コロナ陽性が判明した際は、営業を中止する等感染拡大防止に努めた。
3. 働きやすい職場づくり・人材育成
- ・職員間の連携が取れたことで、新しいプログラムを共同で取り組むことが出来た。
 - ・資格取得希望者には、勤務希望や勤務変更を柔軟に対応し、他職員への理解や協力を得ることで、専門性の向上に努めた。
 - ・人員配置の偏りがないように配慮しつつ、体調不良時は負担の少ない業務を指示するほか、早退出来るよう職員が不安なく働ける環境作りを行った。
4. 地域貢献
- ・行事や地域ケア会議は中止が続いたが、河川清掃に数人参加することが出来た。
 - ・なの国独自の文化祭を開催し、会場で作品の展示や販売を行った。

【ヘルパーステーションなのくに】

1. 利用率の向上
- ・一人の利用者に対し複数の職員でサービス提供を行うため、ミニカンファレンスの回数を増やし手順の統一と情報共有を行った。
 - ・課題発生時や課題抽出時には、担当ケアマネへ迅速に報告し、相談することでケアプランや訪問介護計画の変更に繋がった。
 - ・退院後、自宅での入浴が困難となった利用者を拠点内のデイサービスに紹介し利用に繋がった。
2. 高品質なサービスの提供
- ・事業所内研修では事例研修を実施し、現場の課題解決に繋がったことで実践力の向上が図れた。
 - ・訪問介護会議や内部研修を定期的に開催。研修内容に即した資料配布も行った。欠席に場合は個別面談の上、資料配布や情報共有を行った。
 - ・同行訪問を行うことで、各訪問介護員の自己流がないか確認や修正を図り、サービスの統一に努めた。
 - ・軽微な要望も必ず事業所に報告する体制を確立しており、サ責と共に内容を精査、必要時は指示を行った。
3. 働きやすい職場づくり・人材育成
- ・個人面談やミニカンファレンスを実施。課題解決だけでなく、業務に関する悩み相談を受け解決に繋がった。
 - ・急なシフト変更でもシフトの組みなおしが出来るよう、普段から事業所内での取り組みを行った。
 - ・サービスの空き時間には、併設のデイサービスへヘルプに入ることもあった。
4. 地域貢献
- ・状況に応じて利用者の近隣の民生委員へ協力を要請。利用者がその地域で安心して暮らせる環境となるよう努めた。

[実績]

①入・退所（なの国）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	1	3	1	0	1	1	1	1	1	4	4	2	20
退去者数	2	3	0	1	0	2	0	2	3	4	3	4	24
月末在所	72	77	78	77	79	75	76	74	72	75	74	75	904
稼働率(%)	91	93	98	97	97	96	94	95	91	91	94	95	94

②短期入所

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用(延)	546	538	526	541	368	406	549	474	508	495	444	467	5,862
日平均数	18.2	17.4	17.5	17.4	11.9	13.5	17.7	15.8	16.4	16	15.9	15.1	16.07
稼働率(%)	91	86.8	87.7	87.1	59.4	67.7	88.5	79	81.9	79.8	79.3	75.3	80.29

③デイサービスセンター

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用(延)	534	517	534	494	469	456	488	380	525	443	352	507	5,699
日平均	20.5	19.8	20.5	18.3	17.5	17.5	18.7	14.6	19.4	17	18.8	18.7	18.4
平均介護度	2	2.1	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.2	2.2	2.2	2	2.1

④ヘルプーステーション

・登録者人数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
登録者 (実人数)	(予防)	40	40	38	37	37	42	44	43	41	41	38	39	40
	(介護)	30	36	35	31	27	29	27	26	28	28	32	29	29.8
	(計)	70	76	73	68	64	71	71	69	69	69	70	68	69.8

・サービス提供延べ数

区分/月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
サービス 提供数	(生活)	72	78	87	84	79	75	70	82	70	75	85	98	80
	(身体)	156	222	254	270	231	225	153	149	177	198	222	263	210
	身体・生活	66	75	59	57	53	43	47	44	58	59	57	80	58
	(予防)	231	226	226	217	201	221	225	230	230	215	191	231	220
	(計)	525	601	626	628	564	564	495	505	535	547	555	672	6,817

【介護老人保健施設若杉の里】

1. 利用率の向上

- ・医療機関やケアマネへの営業活動を再開すると共に、各種資料の郵送を行い、利用状況や行事の紹介を行いながら利用者確保に努めた。
- ・法人内他事業所と情報共有を実施。受入れが困難な場合は適時理由や状況説明を行った。クラスター発生等によりスムーズな入所とはならなかったケースもあった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・利用者個々のニーズを生かした生活を目指し、個別性を生かしたケアプラン作成を意識した。担当者会議においても感染対策を念頭に専門職間の連携を図った。
- ・ターミナル期は可能な限り個室環境を整えたが、感染対策によりご家族の居室での面会は困難であった。
- ・ご家族からの要望や苦情については施設全体の問題として解決に向けて取り組んだ。
- ・感染予防対策に終始し、備品や消耗品の確保、ワクチン接種や面会制限等を行ったが、クラスター発生し、結果的にサービス提供に支障を来した。
- ・脳トレや棒体操、各種レクリエーション等の実施が定着しつつある。
- ・各フロア、申し送り等で利用者の状態把握や共有が図れるようになり、スタッフ間やご家族との連携もスムーズになった。
- ・インフォームドコンセントは、感染症対策や発生により全てのご家族に対面での実施は出来なかったが、対面が変わり電話で実施した。
- ・クラスター発生時、策定していたBCPに基づき対策を行おうとするも、感染の広まりが早く十分な対応が出来なかった。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・限られた職員数で、特に新人職員への指導は指導職員と役職職員が連携しながら実施した。
- ・状況に応じて役職者や指導職員による面談を実施。今後は定期的な開催を目指す。

4. 地域貢献

- ・地域包括ケアシステムとの関りとして活動要請があった際に参画した。
- ・ライフレスキュー事業については、随時開催される連絡会へ参加した。

[実績]

① 退所状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規入所者	2	1	3	1	3	2	1	2	2	0	3	5	25
短期入所者	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	1	5
長期退所者	0	0	5	3	3	4	1	3	0	6	1	2	28
短期退所者	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	4
月末在籍者	88	89	87	85	85	83	83	82	84	78	80	83	
稼働率(%)	87.9	88.8	86.8	86.3	85.1	84.6	83.8	82.5	82.5	80.7	78.9	79.1	83.9

② 月別要介護度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護1	20	21	21	21	24	22	22	22	22	21	20	17
要介護2	21	21	21	20	19	19	19	19	19	18	17	19
要介護3	19	19	18	18	18	18	18	17	15	12	13	17
要介護4	14	14	13	13	12	13	12	12	14	13	14	13
要介護5	14	14	14	13	12	11	12	12	14	14	16	17
合計	88	89	87	85	85	83	83	82	84	78	80	83
平均介護度	2.78	2.76	2.75	2.73	2.64	2.66	2.67	2.67	2.75	2.76	2.86	2.93

公益事業

【居宅介護事業所 ケアプランセンターふたば】

1. 利用率の向上

- ・感染対策の観点から、積極的な PR 活動は出来なかったが、区分変更時のサービス担当者会議への参加以来は多く、取りこぼす事無く参加出来た。
- ・新規利用者を確保するも、既存の利用者の死亡や入院、施設入所が相次ぎ利用者増には繋がらなかった。
- ・訪問介護のとの情報交換、連携を取ることは出来た。

2. 高品質なサービスの提供

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・各自の困難事例の進捗状況を報告し、事業所内で相談できる環境を作ることで、精神面のフォローが出来ている。状況によっては地域包括支援センターへ報告を行っている。

4. 地域貢献

- ・使用済み切手を FM福岡ラジオ局へ郵送した。

・令和4年度利用者登録者数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
要介護1	17	15	14	14	14	17	16	16	17	18	18	15	191	15.9
要介護2	22	21	23	22	26	22	21	23	22	22	21	21	266	22.2
要介護3	9	10	13	14	12	10	10	10	10	12	11	11	132	11.0
要介護4	3	4	4	3	3	5	6	5	5	5	5	5	53	4.4
要介護5	2	2	2	2	2	4	5	4	4	4	4	3	38	3.2
要介護(合計)	53	52	56	55	57	58	58	58	58	61	59	55	680	56.7
要支援1	6	5	5	6	6	7	7	7	8	10	10	10	87	7.3
要支援2	12	12	10	10	10	11	10	9	9	8	8	8	117	9.8
要支援(合計)	18	17	15	16	16	18	17	16	17	18	18	18	204	17.0
総合計	71	69	71	71	73	76	75	74	75	79	77	73	884	73.7

【居宅介護事業所 ケアプランセンターなのくに】

1. 利用率の向上

- ・年間平均実績 53 件の目標を達成できた。
- ・紹介されたケースについて経過のフィードバックを行い、継続的な関りを持った。
- ・いきいきセンターや病院の連携室からの紹介依頼が増えた。

2. 高品質なサービスの提供

- ・ケアマネ視点だけでなく、サービス事業所やサ高住職員からの情報も含めて多角的な視点を取り入れ自立支援に繋がるよう意識した。
- ・感染対策を取りながら、可能な限り対面でのモニタリングを実施した。
- ・特定の事業所に偏ることなく、真に本人やご家族の意向に沿うような事業所を紹介、選択出来るよう努めた。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・併設事業所である強みを生かし、情報共有や連携が図れた。
- ・主任ケアマネ更新が終了。自主学習に努めた。

4. 地域貢献

- ・民生委員の方との交流会に参加した。

・利用者登録者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
予防	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
介護	52	49	52	52	51	51	51	50	51	49	50	48
合計	55	52	55	55	54	54	54	53	54	52	53	51

【サービス付き高齢者向け住宅 まほろばの里なの国】

1. 利用率の向上

- ・新型コロナにより上半期は 95%程の稼働であったが、徐々に回復。年度末は 98%の稼働となった。
- ・10月から1月にかけて入居者5名、職員1名がコロナに罹患。また1月以降圧迫骨折等による入院者が多く、最大8名の入院者が出た月もあった。

2. 高品質なサービスの提供

- ・相談員2名体制のため、いずれかの相談員に話をされる方が多くなったため、相談員記録にて相談内容の共有を図っている。
- ・感染予防対策から、一堂に会しての懇談会は実施せずアンケート調査のみ実施。可能な限り調査で出た意見や要望には応えた。
- ・看護師を中心として入居者個々のかかりつけ医や他事業所との連携を行った。特に近隣医との連携を深め、コロナワクチン接種や入院に関する協力体制は構築出来ている。
- ・年明け以降、感染状況を鑑みながら外部販売である「なのくにマルシェ」を開催した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・10月～1月にかけて新型コロナ罹患発生に伴い都度ミーティングを行い、情報共有やマニュアルの見直しを行った。
- ・外部研修はリモートでの参加が多かったが、内部研修は年明けより集合研修を再開した。
- ・各月1回は有給が取得するよう配慮している。

4. 地域貢献

- ・公民館活動が少しずつ再開されたものの、積極的な人的派遣には至らなかった。ただし、十郎川清掃には参加した。

① [月別要介護度]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
自立	9	8	8	8	7	6	6	6	6	6	6	6	6.8
要支援1	6	6	6	5	6	8	9	9	9	9	9	10	7.7
要支援2	4	4	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3.7
要介護1	13	13	13	12	14	14	14	14	14	14	13	12	13.3
要介護2	8	8	10	6	6	5	5	4	4	5	5	4	5.8
要介護3	2	2	2	3	3	4	2	2	1	1	2	3	2.3
要介護4	0	1	1	2	2	2	3	3	3	3	3	2	2.1
要介護5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
平均介護度	1.52	1.63	1.65	1.78	1.72	1.76	1.75	1.74	1.68	1.7	1.78	1.76	1.71

② [入退居状況]

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者数	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	8
退去者数	1	0	0	3	0	0	1	2	1	0	0	2	10
月末在居者	40	40	40	39	39	40	40	40	37	35	38	33	38.4
稼働率(%)	98.3	97.5	100	93.9	95.6	97.9	97.8	99	100	100	100	99.0	98.3

【なの国ケアスクール】

1. 利用率の向上

- ・福岡市、糸島市を中心に積極的な広報活動を実施。「介護福祉士実務者研修(18名)」、「初任者研修(7名)」の修了生を輩出した。
- ・受講生の受講に関する金銭的負担の軽減として、教育訓練給付金(実務者5名・初任者1名)、介護福祉士修学資金貸付制度(11名)の活用を支援した。
- ・近隣市へ積極的な広報活動を行い、「介護福祉士実務者研修(24名)」の修了生を輩出した。

2. 高品質なサービスの提供

- ・介護福祉士受験対策は、Webシステムの積極的な活用をサポート、関連雑誌も予想問題等の提供を継続した。
- ・新型コロナ陽性、農耕接触者となった受講生には特別歩行で対応した。

3. 働きやすい職場づくり・人材育成

- ・法人内職員2名が「介護福祉士実務者研修」を受講した。
- ・法人内職員2名が「介護職員初任者研修」を受講した。
- ・ケアスクール修了者より、法人職員として2名を増やすことができた。

4. 人材育成と確保

- ・高校生や地域住民、公民館へ広報活動を行ったが、受講希望者はいなかった。

【恵徳会ライフレスキュー事業】

1. サポーターの配置並びに総合生活相談活動

- ・事務局や社会福祉協議会から要請があった際は恵昭園、若杉の里双方のサポーター協同で支援を実施した。

2. 経済的援助

- ・ 支援要請があった際は、可能な限り協力した(家電品の搬入)。
- ・ 職員へ支給品の確保依頼を行い、家電品を中心にストックした。

3. 地域での連絡会、研修会への参加

- ・ 地区連絡会は可能な限り出席した。